

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成23年10月23日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	新規開設の為、本年度における情報の公表制度調査対象外事業所
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成23年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんをご自宅で暮らしておられる様な生活を送れる事をモットーとしている。 ・利用者さんにとり、安心で心地よい介護に努める。 ・近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず。また近くには香住病院・消防署もあり、緊急時においても安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置しています。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①居住環境・・・平成23年1月に開所(新築)した事業所であり、防災面においても安心できる設備が施されている。木の温もりを大切にしたりとした居住スペースは解放感がある。リビングには、一段上がった畳敷きのコタツスペースも設けられている。また、共用廊下や浴室もゆとりを持った設計となっており、ADL低下で車椅子を使用する利用者の移動時にも安全が確保できる住環境である。</p> <p>②法人内連携・・・同法人内の通所介護(デイサービス)「知恵の輪」とも、日常からの交流(外出・行事)があり、楽しみ事への協力関係を持つことが出来る。</p> <p>③医療面・・・職員の中に看護師があり、日常の健康管理を含め、緊急時の対応にも安心が出来る体制である。</p> <p>④食事の支援・・・香住地区ならではの新鮮な魚等、利用者が入居前から慣れ親しんでいた食材を献立に取り入れ、食事を楽しんで頂いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の運営に終始し、まだまだ理念自体の共有・実践に繋がっていない。	安心と尊厳、自立の支援、地域住民の一員としてという着眼点から、「その方が、その方として、その方らしく、お暮らしになれるようにお支えます」という理念を掲げている。理念の浸透に向けて前向きに取り組んでいるところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所・地域自体ともに新しい為、あらゆるものが整っていない、地域の人たちとゴミ集積場・防犯灯設置を役所に依頼している状況である。	地域のブロック割の関係で街路の防犯灯の整備が不十分であり、そのことがきっかけとなり、隣接区との話し合いの機会が作れた。地区のお祭り等にも利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者さんの「日向ぼっこ(日光浴)」での実施状況が、先の運営推進会議で「地域住民への認知症理解の一助となっている」との評価を頂いている程度で、地域貢献とまでは進んでおりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望には、職場会議時テーマとして取り上げ、意見集約に努め次回運営推進会議に報告し、例えば徘徊マニュアル等。まだまだ開催自体が少ない中ですが有効に取組みします。	運営推進会議の定期的な開催に向け、行政や利用者家族等への働きかけに努力をしている。状況の報告や具体的な提案事項も多く、今後の定期開催が課題となっている。	開催日を固定化し、事前の連絡による出席確認をしてみてもは如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月香美町役場主催「ケア会議」に出来る限り参加し、他の事業所・事業体の取組状況等情報交換したいと思出席しております。	香美町の役場が主催しているケア会議に出席し、行政からの情報入手をはじめ、他事業所との情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに向かっていますが、スタッフ経験浅く、利用者さんも帰宅願望強く、交通事故防止の観点もあり、玄関施錠も止む無しの現状です。	利用者の安全を重視しているため、現状では玄関の施錠を行なっている。個室の鍵は後から設置されているが、使い勝手等が今後の課題となっている。	具体的な身近な事例等を通じた研修の実施により、さらに職員が理解を深めて頂くことを期待をします。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	従来のような身体的・経済的虐待よりも、日常最も注意を要することは「言葉による虐待」であり、機会ある度に注意・喚起に努めております。	身体的な虐待以外の部分にも着目し、事例を用いた検討・研修の必要性を認識している。特に言葉掛けには十分注意を払っている。	法令資料の読み合わせにとどまらず、「言葉による虐待等」身近な具体的事例も取り入れて、新人にも理解しやすい継続的な勉強会の実施に期待をしたい。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当地でも核家族化が増え、成年後見制度等の利用・必要性が高まる中、本件講習会にかかわらずぜひとも参加勧奨し、環境作りに努めます。	権利擁護については、事務長が主体的に研修などを受けている。職員への伝達研修を予定している。	「利用者の権利」を深く学ぶことで日常の支援内容にも磨きがかかります。今後の学習に期待をします。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には専門用語をさげ、形式的説明に止まらない説明を心がけ、介護者(代理人)だけでなく家族にも理解の上での契約に努めております。	契約時には、重要事項の説明書以外に、平易な記述で分かり易い「グループホーム家族の家」という小冊子を作り、手渡すようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大多数のご家族の皆さんは近所にお住まいで、日頃よりお逢いする機会多く、雑談の中に意見・要望発見し、ミニカンファレンス等で共有・反映を心がけています。近々「カマダグループ新聞」発刊予定。	今後、法人全体事業の紹介できる新聞「カマダグループ新聞」の発行を予定している。家族への説明や話し合いの機会を増やすことが今後の課題となっている。	個々の利用者の日頃の暮らしぶりの状況報告(毎月のお便り)とともに、法人の季刊新聞の発行に期待をします。また、今後、家族会の充実にも期待をします。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議には社長・事務長もできる限り出席し、意見要望の聴取を行うようにしているが意見希少なので、やり方を再検討したい。	代表者は時間の許す限り事業所を訪れている。職員からの報告も含め、利用者と接することで状況を把握するように努めている。	事業所の組織(役割分担・指示系列・会議系列)を明確にされ、各セクションの意見を職員が共有できる仕組みの確立に期待をします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開業10ヶ月本施設も落ち着き始めたようで、人事管理・人事考課等の体系化を導入方針です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への参加勧奨するも意欲が低調である。研修体系の導入環境作り、自己啓発の推進・勧奨して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者交流は開業時だけに止まり、その再開をはじめ、より高度・高位の交流を交渉中です。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時はじめ日常会話の中で、不安や要望を取り出だそうと努め、その反映を図ってます。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とスーパーなどでお逢いする時、ご家族の要望等聞くことがある。次面会来訪時に話しやすい雰囲気を作るようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族の必要とされる支援内容をつかみきれていなかった思いもあり、反省し、意思疎通の重要性を痛感しております。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気がつけば高位から話をしている事に驚く事があり反省し、その改善を痛感しております。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の出来事・行事・家族の出来事情報の収集に努め、それを利用者さんに提供するようにしています。	町からの情報や社協だよりを活用し、行事や外出の機会に反映させている。利用者の出身地で行なわれているお祭りにも参加している。同法人内のデイサービスとの協力関係も構築されている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した利用者さんのでないように、常に気遣いに努めるも、「その人らしさ」に注意した取組を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所相談・退所後相談にも出来る限り支援すべく、日々情報収集に努めて、日常より何でも相談をして頂けるような環境を築きたいと努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの想いを思いやり・受取れるよう努めています。	利用者に寄り添い、意向の把握をするように努めている。アセスメントの充実と職員間での情報共有が今後の課題であることを認識している。	利用者や家族の意向の把握のための積極的な取り組みの検討に期待をします。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から教えて頂いた事、利用者さん本人から聞いた事を職員間で共有したく努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん本人の望みを優先するも、自立継続努力をも大切にしたいと努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員をリーダーとして、チームケアで取り組みたいと努めるも、職員の一部には初心者であまり進んでおりません。	介護計画に反映出来るよう、日常のケア記録の充実を図ることの認識は理解できている。現在、日々の記録方法を検討中である。	その方らしい暮らしの個別計画作成のため、アセスメント、日々の情報、カンファレンス等の記録を充実し、職員が把握しやすいよう整備されることに期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき・見守りの記録に留まり、その活用にまでに至っておりません。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応したく努めるが、平等・公平な対応も大切な事と考えます。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りの行事に参加し、地域の方とふれあうことができた。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診をしており、家族対応をお願いし、希望により通院介助している。	従来のかかりつけ医を尊重している。原則としてご希望される医療機関への同行は家族にお願いしている。医療面での支援は管理者が中心となっており、法人代表や看護師も積極的に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは、看護職や介護職員間で共有している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、本人の様子を知るようにしている。退院後の生活を家族と相談しながら対応している。	入院時は管理者が中心的に動き、法人代表がフォローしている。退院への対応も同様である。職員との情報の共有が今後の課題となっている。	連絡や報告についての記録化やマニュアルの整備に期待をします。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)長く必要になればグループホームでは対応できない事伝え、特別養護老人ホーム等への申込みをお願いしている。	重度化や終末期に向けた取り組みなどの説明は、主に事務長が対応している。グループホーム介護でのケアの限界についても家族に説明をし理解して頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署指導の下に緊急マニュアルを作成したが、実戦訓練はまだしてない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の合同防災訓練には参加し、兵庫県佐用町でのグループホーム水害被害を思うと地域との協力関係の重要性を再認識している。防火管理者を養成資格も取得した。	事務所に設置されている非常用通報装置は消防署に直結されている。スプリンクラー設備も全館設置され、避難訓練など防災に関する取り組みが出来ている。	夜間は人員が少なくなるので、夜間想定をした訓練等の継続的な実施をすることで、職員や家族の安心感にも繋がることと察します。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前も「ちゃん」づけは抑制し、敬語で会話するように努めている。	声掛けや日常会話について、苗字や敬語の使用を意識している。管理者は入浴や排泄時の羞恥心への配慮の認識もしている。	「プライバシーの確保」を広域に捉えて頂き、言葉遣い・羞恥心への配慮・個人情報等々も含め、新任及び現任研修に組み込み、徹底できる取り組みに期待をします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加も施設が強制することなく、利用者さんの意思で決定するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせることなく、極力利用者の意思尊重し、かつ、家族が協力して頂き外出等を取りいれています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には極力、自分で衣服の選択行為をして頂くように取組んでいます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたり、各種行事に合わせ、おこわ、おにぎり作りをし、おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒にしている。	現在の所、食事の献立作りは職員が中心となって作成している。お誕生日に巻き寿司を作ったり、おやつ作り(おはぎやよもぎ団子)をして、利用者の参加できる機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事量を把握し、栄養バランスを考慮して一人ひとりの状態にあわせて食事形態を変形している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケア推進しているが、その時々で不十分な場合もある。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導をしている。	日常の記録をもとに、排泄のパターンを把握するようにしている。外出時にはリハパンの活用も並行し、利用者の不安を軽減できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整をしている。水分摂取量の確保に努めているが、足りない方もいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂嫌いな方が多く、声かけが難しい、無理強いはず、何日も待つ時もある。	土日も含め、午前・午後とも毎日入浴が可能であり、隔日に入浴が出来るようにしている。ADLの低下した利用者に対し、二人介助がし易いように浴槽設置も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど居室で過ごされている方もあり、好きな時に自由に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は説明書を確認し症状の変化観察するように心がけている。看護師が配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きなど役割を持って頂き、得意な巻き寿司作り、だんご作りもしてもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、日光浴を行なっている。地区行事への参加、季節を感じてもらえるようにドライブにしている。	毎日の散歩や買物ドライブを含め、近くのお寺に季節の花(キキョウ)や花火大会等の見学に出向いたりもして。日常の生活機能訓練として積極的に外出の機会を設けている。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。利用者の思いに沿った支援の継続を願います。また、家族との外出も計画に反映させて、利用者の不安への対応に繋げて頂きたい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どうしてもお金を持っていないと不安な利用者さんがお二人おられ、電話代ですと渡された時にはご家族に返している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から頻繁に手紙が送られてくる利用者には、すぐ返事が出せるようにハガキを用意し、不穩時には電話を架けさせて頂けるよう事前をお願いしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつスペースに面する窓から四季折々景色が望め、天井も高く開放的で風船パレーが楽しめる。季節感は折り紙で季節に合った花を作って飾っている。	法人の代表者の意向により、木造建築であり、広間(リビングフロア)は天井の高い造りとなっており解放感がある。車椅子で出入りできるテラス(洗濯干し場も兼用)があり、自由に外気に触れる事も出来る。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつスペースには2~3人でお話され、気の合った方たちが集まっておられる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参されている方もあり、また仏様にご飯を供えてと言われる利用者さんのご家族にはご主人の写真・位牌を持って来て頂きました。	各居室のドアは引き戸式となっており開閉しやすくなっている。家族に協力して頂き、利用者の個々の馴染みの物を持ちこんで頂くようにしている。	今後も、出来る限り自立した生活の継続を目標に、本人の移動・移乗の状態(ADL)に合わせた動線の安全確保もできるように、家族と相談しながら対応いたします。
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低く利用し易くした。		